

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	加藤清正にならう土木技術を活かしたまちづくりの実践
Author(s)	田中, 尚人
Citation	熊本大学工学部附属ものづくり創造融合工学教育センター 一年次報告書, 平成20年度: 77-77
Issue date	2009-06-26
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/12649
Right	

加藤清正にならう土木技術を活かしたまちづくりの実践

社会環境工学科 田中尚人

1. はじめに

1) プロジェクトの目的

加藤清正は、城郭設計や川除け、縄張りなど土木技術、街割りや住民組織化など都市マネジメントに精通していたとされ、城下町から続く現代熊本の基礎を築いた戦国武将である。本プロジェクトは、本学科の教員、学生が、技術史や都市計画史など清正が保持していた技術や知識を市民とともに歴史に学び、これからの熊本のまちづくりに活かす実践である。

2) 昨年度からの継続の理由

本取り組みでは、加藤清正やそれ以降の土木技術者が実践した土木技術や都市マネジメントに関する土木史的知識をアーカイブとして共有し、まちづくりへ適用する技術や実践の場を提供してきた。教員、学生、地域住民が一体となって、清正の技術や熊本のまちについて学習し、地域や「くまもと地域基盤政策研究所」などの場において成果発表を行ってきた。

2. プロジェクト概要

1) 「社会基盤設計演習」における取り組み

プロジェクトは、第1編：探求編「探そう・知ろう」、第2編：活用編「考えよう・活かそう」からなり、いずれも教員、学生、地域住民が一体となって、清正の技術や熊本のまちについて学習するものである。

社会基盤設計演習は本学科3年生の必修科目であり、本年度より通年となった。各専門科目を統合し、土木工学の適用範囲の広さを学び、グループワークの重要性を学ぶ科目である。当学科の学生や教員が地域住民との共同や土木技術の適用について考えている。

平成20年度の加藤清正、城下町熊本、まちづくりに関するテーマは以下の通り（【】内は指導教官）。

- ①壺川地区降雨状況の観測と解析
【田中健路助教】
- ②地中レーダーを用いた熊本城の石垣の調査
【大谷順教授】
- ③交通センター周辺桜町地区再開発への提案
【星野裕司准教授】
- ④思い出になる城下町の水辺
【田中尚人准教授】
- ⑤熊本市近郊の湧水・銘水水質マップの作成
【川越保徳准教授】

2) 実践的技術、知識データベースの構築

本プロジェクトでは、まちづくりに摘要可能な実践的技術、知識データベースの構築も目的としている。

構造、河川、地盤、計画系など各分野に関する教員、学生が清正の技術（土木、都市マネジメント）を学び、まちづくりへ活かすためのアーカイブを構築する

市民とともに土木や熊本の歴史を学び、現代のまちづくりに活かすための場の構築する。これらを、まちづくりの実践に活かし、これらの技術を継承するための歴史的知識、土木技術の視覚的情報化を行う。

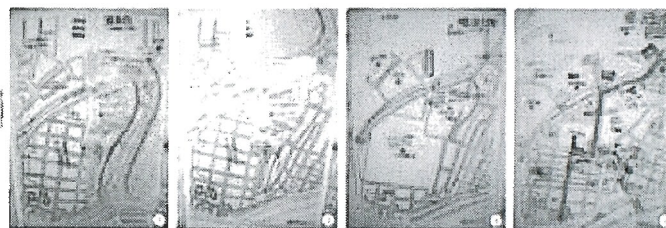
昨年度の研究支援で作成した、五高・熊本高等工業学校卒業設計データベースを用いた以下の研究が、それぞれ学会から評価されている。

- ①近代期の中堅土木技術者教育に関する一考察 一五高・熊本高等工業学校を対象として一、山中孝文他、平成19年度土木学会西部支部研究発表会、2008.3. 『優秀発表賞』受賞
- ②五高工学部・熊本高等工業学校における橋梁を対象とした卒業設計の特徴とその変遷、蓮尾信彰他、第4回景観・デザイン研究発表会、2008.12. 『優秀ポスター賞』受賞

3. プロジェクトの成果

③交通センター周辺桜町地区再開発への提案

交通センターを中心とした桜町は、周辺一帯の再開発が計画されており、地元のまちづくり活動が盛んな地区でもある。星野先生の指導により、桜町地区が城下町として重要な位置づけにあること、歴史的観点からまちづくりを行うこと、を提案指針として、地域住民とのディスカッションやその基礎調査を行った。



星野先生は1998年・1999年編、町会11年（1999年）、平成15年（2004年）、平成16年（2005年）、平成17年（2006年）、平成18年（2007年）の5回、桜町地区の歴史調査を実施し、その資料を『桜町地区の歴史』としてまとめ、地域住民や関係機関に提供した。この調査結果は、桜町地区のまちづくりの基礎資料として活用されている。

図 桜町周辺の歴史調査結果（星野先生指導学生）